

I 検討課題と協議経過

1 検討すべき課題と検討の視点について

千葉県教育委員会では、令和4年3月に、今後10年間の県立高校改革に関する基本的な考え方を示す「県立高校改革推進プラン」を策定し、生徒の多様なニーズへの対応や、キャリア教育・職業教育の充実など、県立高校の現状と課題を踏まえ、「全ての高校の魅力化と学びの改革」、「キャリア教育と職業教育の充実」「学校間連携」「戦略的な広報」の4点を重点事項として、県立高校の魅力化・特色化を推進することとしました。

本プランでは、県立高校の現状と課題の1つとして、人口の減少を掲げ、都市部と群部の差について、次のように述べています。

中学校卒業生数は、平成元年以降、全県的に急激に減少してきましたが、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、さらに約6,200人減少することが見込まれています。

特に、第1学区から第3学区までの、いわゆる都市部においても、10年後には約3,000人が減少する見込みとなっています。

また、第4学区から第9学区までの、いわゆる郡部においては、少子化に伴う小規模化が進行するとともに、これまでの再編により、高校が離れて点在している状況にあり、交通の利便性や学校選択の幅において、都市部との差が拡大しています。

千葉県は地域特性が非常に多様であり、まさに「日本の縮図」といえる状況にあります。人口減少が進む県内各地域において、人口減少が教育の地盤沈下を引き起こさないよう、少子化や地域の状況、私立学校も含めた高校の設置状況等を踏まえた高校の適正配置の在り方について検討する必要があります。

このような状況を踏まえ、それぞれの地域の特性を踏まえた県立高校の在り方について検討する必要があることから、中学校卒業生数が減少する中でも、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるように、県立高校の学校規模の適正化を図り、併せて学校及び学科の適正な配置を行うこととし、県立高校の配置について、具体計画の方向を次のように決めました。

○多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。

- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。
- 定時制高校については、学びの機会を保障するとともに、生徒・保護者及び地域のニーズ、地域バランス等を考慮し、配置の在り方について検討します。
- 通信制高校については、県内唯一の通信制高校である千葉大宮高校を中心に、県内全域の生徒が学ぶことができる体制づくりを検討します。

これらの具体計画の方向に基づいた学校の適正な配置を検討するに当たり、地域関係者の意見を聴くために学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会を、今後は郡部だけでなく都市部においても同様に中学校卒業生数の減少が見込まれることから、県内全域を対象に開催することとしました。

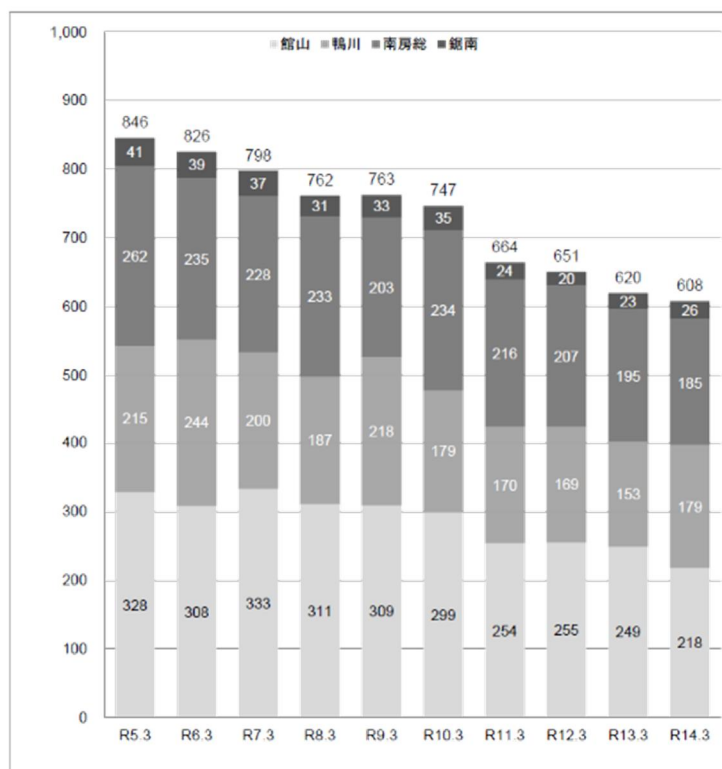
地域協議会では、学校の適正配置はもとより、地域の特性や実状を踏まえ、「将来の子どもたちにとって、この地域の県立高校がどうあるべきか」、「どのような学びがこの地域の子どもたちに必要か」など幅広い視点からさまざまな意見を聴取することを目的としました。

また、「千葉県教育振興基本計画」や「県立高校改革推進プラン」を踏まえ、「地域における県立高校の在り方」、「地域との連携」をキーワードとして、それぞれ具体的に次の点を検討の視点として、議論を深めることとしました。

- ・望ましい学校規模について
- ・地域との連携及び地域からの支援について
- ・地域連携協働校について

なお、安房地区における高校の状況ですが、県立高校は全日制4校（うち2校は定時制を併置）、私立高校は全日制2校（うち1校は通信制を併置）が所在^{※1}しています。学校規模^{※2}は、県立高校全日制4校では、令和5年度入学生の学級数合計が18学級、平均学級数が4.5学級であり、定時制高校2校の学級数合計は同年度入学生で2学級でした。県立高校定員に対する充足率^{※3}は、令和4年度入学生において、全日制では館山総合高校の工業科が35%、海洋科が45%で入学生が定員の半数を下回り、定時制では長狭高校が5%、館山総合高校が10%でした。一方、安房地区の中学生の状況^{※4}は、令和4年3月卒業者数は827名でしたが、10年後は推計で608名となり、令和4年3月卒業者数と比較して219名減少します。このような県立高校の学級規模や中学卒業者数の減少傾向から、10年後の学校規模は県が示す適正規模の維持が危惧される状況にあります。

- ※1 安房地区の県立高校の所在については、資料編「会議資料9ページ」を参照。
- ※2 安房地区の県立高校の学校規模については、資料編「会議資料16ページ」を参照。
- ※3 安房地区の県立高校の充足率については、資料編「会議資料16ページ」を参照。
- ※4 安房地区の中学校卒業者数の状況については、資料編「会議資料17～22ページ」を参照。



安房地区の国公立私立中学校卒業者数の推移と見通し

2 協議の経過について

第1回

令和5年1月6日（金）開催 （於：菜の花ホール 第1・第2集会室）

○ 座長選出

【議題】

- 1 地域協議会設置の趣旨
- 2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について
- 3 安房地区の県立高校の現状と課題

第2回

令和5年2月9日（木）開催 （於：千葉県南総文化ホール 大会議室）

【議題】

- 1 安房地区の県立高校の在り方について
 - ・普通科及び普通系専門学科・コース（教員基礎コース、医療・福祉コース等）
 - ・職業系専門学科・コース（工業科、商業科、海洋科、家政科、総合技術高校等）
 - ・総合学科
 - ・社会のニーズに対応した教育（単位制高校、環境の学び、定時制高校、通信制協力校等）

第3回

令和5年3月15日（水）開催 （於：千葉県南総文化ホール 大会議室）

【議題】

- 1 安房地区の県立高校の適正規模・適正配置について
 - ・望ましい学校規模について
 - ・地域との連携及び地域からの支援について
 - ・地域連携協働校について

Ⅱ 協議結果

1 地域協議会開催の趣旨

地域協議会開催の趣旨について説明しました。

※ 詳細は、資料編「会議資料 3 ページ（安房地区地域協議会設置要綱）」を参照。

2 「県立高校改革推進プラン」及び「第 1 次実施プログラム」について

次の点について説明しました。

- ・これまでの高校再編について
- ・「県立高校改革推進プラン」の概要
- ・「第 1 次実施プログラム」の概要

※ 詳細は、資料編「会議資料 4～7 ページ」を参照。



3 安房地区の県立高校の現状と課題

安房地区の県立高校の現状と課題として次のような内容を説明しました。

(1) 安房地区の県立高校 4 校の現状

- ・概要、沿革、募集学級数の推移、入試の状況、進路の状況について確認する。
- ・安房地区には、普通、工業、商業、海洋、家政、総合といった様々な学科があり、中学生には学びの選択が幅広くできる地区である。
- ・長狭高校は、医療・福祉コースを設置し、地元と連携した学校運営を行うとともに、関係医療機関や福祉施設の協力のもと、医療・福祉系人材を育成している。
- ・総合学科を設置する安房拓心高校は、文理、園芸、畜産、土木、調理の 5 つの系列においてキャリア教育に力を入れ、高い就職内定率を維持している。調理系列においては、高校卒業時に調理師免許を取得できるなど、特色ある学びを提供している。
- ・安房高校は、文武両道の校訓のもと、学習と部活動の両面でトップクラスの成績を目指しており、卒業生の 7 割以上が大学に進学している。また、教員基礎コースの設置や単位制の導入など、魅力ある取組を展開している。
- ・館山総合高校は複数の職業系専門学科を設置する総合技術高校として、職業教育に重点を置いた指導に努めている。大型実習船「千潮丸」を有し、海洋科及び専攻科において海技士資格取得を目指した教育を提供している。
- ・長狭高校と館山総合高校には定時制の課程が設置されており、地域の学びの

ニーズに応じている。また、通信制協力校である館山総合高校では、千葉大宮高校通信制課程のスクーリングや定期考査を受講できる体制を整えている。

※ 詳細は、資料編「会議資料 8～22 ページ（基礎資料）」を参照。

（２）募集学級数の推移

- ・平成元年には長狭高校、安房農業高校、安房高校、安房南高校、館山高校、安房水産高校の 6 校合わせて全日制合計で 46 学級あったが、全県的な生徒数の減少を受け、募集学級数を減じるとともに再編統合を行い、現在では 4 校合わせて 18 学級となっている。
- ・安房高校以外の 3 校ではここ数年定員未充足が続いており、令和 4 年度入試においては全日制 3 校において合計 159 名分の未充足であった。

※ 詳細は、資料編「会議資料 8～22 ページ（基礎資料）」を参照。

（３）安房地区の中学校卒業生の現状と今後の見通し

- ・平成 25 年 3 月に 1051 名だった中学校卒業生数は、令和 4 年 3 月には 827 名と、10 年間で約 200 名減少している。減少傾向は今後も続き、10 年後には 600 名程度まで減少が見込まれている。
- ・学区内の県立高校全日制へ進学する割合は 65%前後を推移しており、公立高校進学者のほとんどが学区内の県立高校 4 校を選んでいる。その一方で、学区内の中学校卒業生数の約 4 分の 1 が私立高校へ進学している。
- ・学区内の県立高校 4 校に進学する割合が現状と同程度のまま推移していくと仮定すると、10 年後に学区内の県立高校 4 校に進む数は約 400 人である。この数は 40 人学級に換算すると 10 クラス程度である。

※ 詳細は、資料編「会議資料 8～22 ページ（基礎資料）」を参照。

4 安房地区の県立高校の在り方について

協議会委員からは次のような意見が出されました。

○普通科及び普通系専門学科・コース

- ・安房地区の県立高校が残念ながら選ばれておらず、他学区の私立高校に流出をしてしまう現状も認識しなければならない。
- ・遠くに行かなくても安房の子は安房でしっかり学ぶことができるというような環境づくりに繋げたい。
- ・安房高校は進学指導重点校として、子供たちの学びに向き合っていかなければならない。国内外様々な大学との連携協定や、地元の学習塾との連携などを進め、子供たちの学習の充実に努めていけるとよい。
- ・高校卒業後に就職しようという子供が減少しており、大学への進学の志向が高くなっている。結果として安房高校、または学区外の私立高校に進学する割合が増加している。
- ・中高生の希望職種は公務員や教員、幼児保育系などが高い。そのような傾向も踏まえ、今後の県立高校のことも考えていければよい。
- ・職業系専門学科でも指定校推薦があり、大学進学だけを考えると普通科だけではない。
- ・長狭高校については、医療・福祉しかできないと中学生が思い込んでいる場合がある。医療・福祉コースのアピールと同様に、進学に特化した学習指導もあり、その他の進学先へもチャレンジできることについて、周知が必要である。
- ・今は各校の特色が色濃く出ており、非常に良いことだ。中学生が目的を持って高校に進学できればよい。
- ・県立4校それぞれの特色を出していき、それに負けない私学という形で、この安房地域の中で公私が共存していけるとよい。



○職業系専門学科・コース

- ・館山総合高校は「地域とともに」という視点で専門性を高める取組を行っており、地域の方々の支援により非常に活発な教育活動を展開している。
- ・館山総合高校は全国でも十数隻しかないという大型実習船を保有している。そのような大切な教育財産をいかに活用し、子どもたちに還元していけるかということも今後非常に大きなことになってくる。
- ・中学の進路指導から始まり、絞り切れずに普通科に進み、普通科在学中にも



絞り切れないから4年制大学に進み、都会で就職をして帰ってこなくなり、地元産業の衰退という悪循環が発生している。

- ・実業系の学校は様々なイベントを市町村行政や近隣の小中学校と連携して行っており、非常に評価も高く地域も喜んでいるが、志願者の増加には繋がっていない。関わった小中学生の多くが結局普通科を選んでしまう。その根本には産業構造がある。卒業後に地元で雇用があるのか、高校卒業後に地元で就職をするのか、大学に進学し4年後に地元の受入環境があるのか、そこまでを見据えて環境整備していかないと解決には繋がらない。地元行政の分野でもかなり掘り下げて、深く考えていかなければならない。
- ・高校選びの際には親へのアピールも大切である。ここ数年、時代は私立であるという考えの保護者が多くなっており、そのあたりも考えなければならない。
- ・高校生が小学生のキャリア教育支援を行い、実際に何ができるのかを示しながら一緒に活動していく中で、将来こんなことができるようになり、こんな職業につけるのだというようなことを小さいうちに示してあげることも大切である。
- ・ある私立高校では、「ながら挨拶」をしない（挨拶をする際にしっかり立ち止まり、挨拶が終わるまでその場から離れない）ということを徹底していた。勉強面だけでなく挨拶を通して人間としての在り方をしっかり教育することもアピールにつながる。
- ・スポーツ推薦などで有力な生徒が集まる私立高校では、チーム内での競い合いによって切磋琢磨し向上できるという利点がある。
- ・勉強が苦手な子どもや情緒不安定な子どもにとって、適正に高校生活を行うことができるような環境を考えるのも必要である。



○総合学科

- ・安房拓心高校の魅力は地域との関わり方である。地元の人が生徒に教える。生徒は小学生に教える。そのような特色があるのが良いところである。
- ・南房総市は酪農の発祥地でもある。地元特有の産業のためにも、こういった特色のある高校を何とか残していきたい。
- ・南房総市においては、安房拓心高校の存在が非常に大きい。安房拓心高校で育てているシクラメンが南房総市のふるさと納税の返礼品になるなど、行政とも非常にマッチした取組を行っている。
- ・和式のトイレが多いのが難点である。中学生やその保護者は学校見学の際に公立と私立の差を感じている。

- ・調理師免許を取れるということは大きな特色である。
- ・安房地区の高校において生徒募集を考える際には、小さな特色のあるマーケット、小さなニーズを拾っていくことが大事である。例えば各コースのネーミングをわかりやすくすることで、ピンポイントに小さなマーケットを拾うことができ、将来的な志願者数の増加に繋がるのではないか。
- ・今後この地域が活路を生み出していく方策として移住者の増加を考えたときに、各高校の持つ特色・魅力あるコース等が周知されていないために生徒が集まらないという状況は大変もったいない。移住者の中には農業をやりたいという人も多く、安房拓心高校のような学校はとても魅力的である。

○社会のニーズに対応した教育

- ・定時制や通信制協力校は、利用生徒数は多くはないものの、いずれも公教育としてなくてはならないものである。
- ・学年の区分がなく進路に合わせて履修科目を選択できる定時制高校や通信制高校のような単位制高校が、不登校の子どもや発達障害を抱えた子どもたちには必要になってくる。
- ・小中学校で不登校が 20 万人を超え、通信制の必要性が高まる中、学校に通えない子どもたちをどのようにして通えるようにするか、または受け入れられる場所をどう増やしていくかが大切である。そういった子どもたちが将来自立した社会人となれるよう、学校と地域が一体となってしっかり導いてあげなければならない。
- ・学校再編を考えていく中で、子どもたちの通学状況が実際にどうなるかを加味した中で、学びのセーフティネットという部分を公教育の立場で維持し続けていかななくてはならない。
- ・定時制を必要としている子どもが今後も一定数存在し続けるという予測のもとで検討していかなければならない。
- ・バスの利用者が減少している中で、行政の負担も非常に大きくなっており、維持存続が非常に難しくなっている。生徒が高校に通学する交通手段について、生徒自前での通学手段も含めて、もう少し柔軟にならないか。
- ・魅力あふれる安房地区の県立 4 校＋安房西高校には、地元の子どもはもちろん、木更津・君津方面の中学生からも選ばれる学校に是非なってほしい。

○全体を通して

- ・地域産業を支え、地域の特色をこれからも維持していくという点では、学校にいろいろな機能があったほうが良い。君津方面へ学生が流出している状況を考えると、国際バカロレア（IB）認定校を目指してみるなども考えてみてはどうか。

5 安房地区の県立高校の適正規模・適正配置について

協議会委員からは次のような意見が出されました。

○望ましい学校規模について

- ・定員の考え方について郡部と都市部の間に線引きできると良い。地域連携協働校で教員定数について配慮が出せるのかどうか。
- ・安房拓心高校と館山総合高校の学びの被り感を極力なくし、両校の方向性をより明確にして、はっきりとした棲み分けをしていく必要がある。
- ・県内遠隔地や他県からの留学生の呼び込みなどにも努力し、他地域から子どもを呼べる状況を作っていくしかない。
- ・この地域については国の基準をあてはめずに特例を認めるようなことも検討してほしい。

○地域との連携及び地域からの支援について

- ・地域から指導者を入れるなど進めていく中で、多様な学びを深めていく方向性を地域との連携の中で考えていくことも必要。
- ・館山総合の海洋科については、寮や下宿などの手法により他県や遠隔地から生徒を集めるアイデアもあり得る。
- ・館山総合には千潮丸があり、県北の子どもでも船乗りになりたいというニーズがあれば安房地区で受け入れる体制を行政で整えるべきである。
- ・遠隔地からの生徒を集めるということで、空き家の活用や、下宿のような事例もあるという話もあったが、実際に安房地区は千葉県内の中でも移住先としてはかなり人気のある場所である。
- ・生徒が集まらず、高校が今後学級減や統合のような問題に直面しているのは、地域の問題であり、実は地域の問題が学校に反映されてしまってきているというような現状である。
- ・地域と学校がもっと一緒に取り組んだり、地域の人材を登用したり、ボランティアなど予算をかけずともできることは結構ある。

○地域連携協働校について

- ・千葉県には不登校特例校がないが、安房地域にそういった学校を作り、県内各地から来てもらうというアイデアもあるのではないか。
- ・安房管内では小中学校の統合を進めているところであるが、子どもたちは充実した学校生活を送ることができており、統合によるメリットもかなりあると感じている
- ・安房はこれまで館山市内の4校が統合により2校になった経緯があるが、今後の統合についてはメリットが少ないように感じている。

○全体を通して

- ・この地域の方々の熱い思いを、制度が妨げているのだとするならば、制度に

風穴を開け、少しでも変えていけるようお願いしたい。県単独で予算措置を講じるに十分な土地柄であり、千葉県が国に誇れるモデル地域となりうると考える。

- 安房拓心高校も館山総合高校も様々な形で魅力発信を行っている。しかし、実業科に行かせようという形にはならない。高校が地域とともに頑張っているということが、募集につながらないところが深刻な問題である。中学校の進路指導における選択肢の提示の仕方そのものについて再考しなければならない。
- 県立高校が選ばれる高校になるためには様々な部分にメスを入れて、学校だけでなく行政も努力をしていかなければならない。地域連携協働校という新しい枠組の中で、どのようなメリットをつけていくのか。教員の加配措置ができるのか。また、地元市町から県立高校に通う生徒に対して、安房地区3市1町として、県として、どういった支援ができるのか。その支援体制をどうシェアしていくのか。本気で考えなければならない。
- 掲示物を通して卒業生が高校で頑張っている様子を知ること、その学校に興味を沸き、学校の特色を知るきっかけになる。少しの紹介があるだけでも違うのではないか。
- 地域の魅力をいかに広報していくかが課題である。県立4校と私立高校がともに切磋琢磨し、地域活性化につながることを期待する。
- 35人学級の導入や地区外からの生徒の獲得などが、高校を残すための今後考え得る方策である。
- 県にはこれらの意見を参考にしつつ法令を超越した取組をぜひお願いしたい。予算のこともあるだろうが、地域の方々にはこれからもぜひサポートしていただきたい。

Ⅲ 今後の検討に向けて

安房地区には、県立高校4校が所在し、その学科構成は、普通、工業、水産、商業、家政、総合があり、普通科と職業系学科がバランスよく設置されている反面、他学区に比べ普通科の設置率が低くなっています。一方、中学生の状況は、令和4年3月の卒業生数は827名であり、10年後には219名の減少が見込まれています。また、産業面では、水産業と農業が盛んであり、酪農の発祥地でもあります。県内でも特に温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、観光地としても有名な地区です。また、大規模医療施設を有し、医療系大学の設置など医療人材の育成といった特色も見られます。

このような特色を支え、更に強い地域を作る高校について、協議会委員は生徒減少による高校再編を地元の切実な問題としてとらえ、お互いの立場を越え、熱心に議論していただきました。意見を集約すると次のとおりです。

- 特色や魅力のあるコース等の周知の必要性
- 安房地区の教育財産の活用方法
- 卒業後の雇用受入を見据えた地域の環境整備
- 定時制や通信制協力校の維持
- 中学校の進路指導における選択肢の提示の仕方の再考
- 安房地区における小中学校の統合状況と統合によるメリット
- 国の基準にあてはめない特例の検討
- 地域連携協働校のメリット
- 35人学級の導入や地区外からの生徒の獲得など、高校を残すための方策
- 地元市町から県立高校に通う生徒に対しての支援
- 寮や下宿などの体制整備

協議会委員の意見を踏まえ、今後の安房地区における高校の在り方については、以下の要素に留意し、更に検討を進める必要があると考えます。

- ◎多様な学びがバランス良く配置されている安房地区において、それぞれの特性を生かした教育活動を展開する高校
- ◎小・中学校、大学、関係機関、住民の方々など地域の協力・支援を得つつ、地域と一体となり、地域の将来を担う人材を育成する高校
- ◎生徒減少期にはあるが、生徒がお互いに切磋琢磨し、学校の活力を失わないために適正な学校規模が維持されている高校

最後に協議会委員の皆様には、それぞれの立場から多岐にわたる貴重な意見を頂きましたことに感謝申し上げます。皆様の意見をもとに安房地区の子どもにとって、より活力のある魅力ある学校づくりを今後も進めてまいります。